

先週の礼拝メッセージ(2022年3月13日) ベン牧師

「新しい人」 エフェソの信徒への手紙 4:20-24

先週は、「闇の中にある人」と題して、罪を罪とも思わず滅びへの道歩んでいる、イエス様を信じていない人々の状態をお話ししました。それを踏まえての20節は、「しかし、あなたがたは、キリストをこのように学んだのではありません。」という言葉で始まります。

私たちクリスチャンは、かつては暗闇の中にいる者であったが、今はそうではなく、キリストを学んだ者であるということです。「キリストを学ぶ」とはどういうことでしょうか。それは超自然的にイエス様の声を聞くとかということではなく、教会に立てられた働き人を通して、私たちはキリストを学ぶのです。

つまり、21節にあるように、キリストについて聞き、真理がキリストのうちにあることを学ぶのです。それはただ知識ということではなく、キリストに結ばれて教えられるものです。信じたら何もしなくても自然にわかるというものではなく、イエス様と共に歩むことによって学ぶことができるのです。イエス様が、「わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。」(マタイ11:29)と言われた通りです。

例えば「赦す」ということ一つをとっても、聖書が赦せと言い、神様が「赦す」ことを求めておられることは、知識としては持っています。しかし、私はあの人を赦せるかということは、どんなに聖書の知識が豊富でも、それだけでは不十分です。神様が、他の人を赦せない私をも愛して受け入れてくださり、私の罪のためにイエス様が十字架にかかって下さった、その愛を心から感謝し、「私が他の人を赦せるように愛をください」とイエス様の前に出て、私自身がへりくだる経験をし、そして本当に赦せる人になることこそが、キリストに結ばれて教えられるということなのです。

時折、聖書と現実とは違うという声を聞きますが、それは間違いです。聖書こそ、クリスチャンにとって現実なのです。なぜなら真理はイエス様のうちにあるからです。

私たちは完全な者ではありません。しかしだからと言って、仕方ないと開き直ってはいけません。すぐに腹を立てたり、ねたんだり、やったらやりか

えすというような感情を、「古い人」と聖書では表現しています。古い人を脱ぎ捨てると22節では言っています。

クリスチャンはすでに新しくされている(コリントⅡ5:17)と同時に、新しくされ続けるという面もあります。

救いということにおいては、罪が赦され、聖められ、全く新しく創造されました。しかし、それで完成かということではありません。欠けも失敗も多々ある私たちです。その都度、十字架を見上げ悔い改めて、赦され、教えられ、古い人を脱ぎ捨てて新しくされていくのです。私たちはそのために、イエス様を学び、知っていくのです。なぜならクリスチャンの成長とは、キリストに似た者となることだからです。

「朱に交われれば赤くなる」と一般に言われますが、クリスチャンは「主に交われれば聖くなる」のです。それは、神にかたどって造られた新しい人を身につける(24節)こととなるのです。

元々、人間は神のかたちにかたどって造られたものです。それは姿かたちが同じという意味ではなく、人間のみ、永遠を思う、神を慕う思いが与えられ、神の愛を受け入れる人格が与えられているという意味です。それなのに、罪によって心が汚れてしまったのです。そんな私たちが、イエス様を受け入れる時、古い人を脱ぎ捨てるだけでなく、新しい人を身につけることになるのです。

さらに、イエス様に喜ばれる歩み、清い(聖い)生活を送るようにと続きます。(24節) 一朝一夕には達成できないでしょう。しかしこれは私たちクリスチャンの目標です。もちろん究極の目標はキリストに似た者となることです。これは決して「・・ねばならない」というものではなく、イエス様によって救われ、新しい価値観を与えられて、みことばによって学ぶことができ、ホーリネスの歩みがすでにできるようにされているのだから、そこを目指しましょうということです。聖くしてくださるのは神です。しかし、私が聖くなりたいと願うことがなければ、神は働くことができないのです。

私たちは、神様の前にへりくだって出て行き、すでに新しくされているという恵みに感謝し、目標なるイエス様に似た者となるように日々新しくされていきましょう。

